

Feature Topic

October 2015

がん診療のフロントライン ——2020年から考える

Part1 勝俣範之 (日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)

Part2 山内英子 (聖路加国際病院 乳腺外科 プレストセンター)

Part3 北野滋久 (国立がん研究センター中央病院 先端医療科)

Part4 濱 敏弘 (がん研有明病院 薬剤部)

Part5 梅田 恵 (昭和大学大学院 保健医療学部研究科)

激動のがん診療。その最前線の定点観測であり、エキスパートが語る未来への提言。

国産の新薬開発や治療法の進化など、近年のがん診療を取り巻く状況の変化は、これまでにない明るい未来を予感させます。しかしながら、がんの罹患数の増加はいまだ止まる気配もなく、2025年問題に象徴される超高齢化社会は、日本のがん領域において世界に例をみない診療体制が必要だとも言われます。

本誌では、「がん診療のフロントライン2020年から考える」というテーマでインタビューシリーズを企画しました。創刊号では、その第一弾として、医学、看護、薬学の世界から5名のエキスパートの先生方にご登場いただきます。

2020年のがん診療がどのような姿に見えているか、そしてどうあるべきか。そのためには果たすべきミッションとは。

構成／本誌編集室